

毎年 8 月 16 日、西之地区の人々は本国寺に参詣し、境内で精霊様（先祖の魂）を供養する盆踊を踊ります。西之では踊りの組み分けをする際に、地区内の集落を東（田代、本村・崎原、平野、野大野・上瀬田）と西（野尻・木原、小田・前之原、下西目、砂坂・官造牧）の大きく二つに分けていますが、盆踊は東の組と西の組が一年交代で行い、各組から二つの踊りが披露されますので、各集落は 4 年に一度踊ることになります。

踊りは、大きく分けて「つんたん拍子」、「たけなが」、「きのぎの」がありますが、各集落で内容は異なります。ほとんどの踊りは、まず、大太鼓、小太鼓、鉦、笛など楽拍子（六拍子）とよばれる楽器の演者を先頭にして入場し、踊り手がつづきます。踊り手は一重の円を組み踊りますが、楽拍子は主に円の中央で踊ります。また、踊り手はカンモクとよばれる仮面をつけ祖先の霊となり踊るのです。

平成 28 年には、第 65 回全国民俗芸能大会に文化庁より推薦され、野尻・木原自治公民館の「たけなが」が出演し、大喝采を浴びました。

日本本土の盆踊りが大変賑やかなものが多いのに対し、この本国寺の盆踊は先祖供養という盆踊本来の意義がそのまま残っていて、しずかでゆかしい古風な踊りとして、日本の古い盆踊の姿を今に伝える貴重な文化遺産であると高く評価されていて、国の無形民俗文化財に選択されています。



第 65 回 全国民俗芸能大会



本国寺の境内で踊られる



盆踊の踊り手



盆踊の装束